

**ウェアラブルデバイスとして進化し続ける
スマホアプリ連動のスマートワイヤレス補聴器
「Halo シリーズ」を発売・拡充**

日本全国に向けて補聴器製造・販売を行うスターキージャパン株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役:高木日出夫、以下スターキー)は2015年5月7日(木)、今までの補聴器の枠組を超えた様々な使い方ができるスマートワイヤレス補聴器「Halo™(ヘイロー)」の新スタイルとしてBTE13タイプ(耳かけ型)を全国のスターキー補聴器取扱店にて発売致します。



“スマートワイヤレス補聴器”とはiPhone®などのスマートフォンやタブレット端末とのダイレクト通信により、全ての機能を簡単に操作することができる補聴器を呼称しています。今日、日本でもっとも主流な「ワイヤレス補聴器」の多くは“中継機器”の必要な製品です。Haloはそのような中継機器を全く必要とせず、現在のスマートフォンの性能を大いに利用する事で、よりシンプルで、より直感的な操作とよりクリアな音質を実現しました。これに専用アプリの拡充も伴って、Haloはユーザーのライフスタイルに合わせ、様々な使い方をご提案できる“進化し続ける補聴器”となりました。

現在、日本の補聴器普及率は難聴症状を自覚されている方が欧米諸国とほぼ同比率であるにも関わらず、実際の使用率は欧米諸国の半分以下、また補聴器に対する満足度も同じく欧米諸国の半分以下(※)となっております。

Haloはダイレクト通信による補聴器としての音質の向上とその操作性により、高齢者のみならず幅広い世代の潜在的難聴の方にも、聞こえで広がる豊かな生活を実現していただける画期的な製品です。

この度、このHaloBTE13の発売とともに、既に販売しているRICタイプ(レシーバー分離耳かけ型)も購入店舗にて性能更新を行う事が可能となり、専用アプリであるTruLink(トゥルーリンク)アプリもAndroid端末に対応可能となりました。これによって、Haloはさらに拡充した機能で補聴器のパーソナル化を促進し、ウェアラブルデバイスとしての補聴器に新基準を提供致します。

発売日	2015年5月7日(木)、一部販売店(池田補聴器(株)ほか)にて先行販売実施中
販売チャネル	全国スターキー補聴器取り扱いの補聴器専門店、眼鏡店、百貨店ほか

(※)出典:「Japan Trak2012」一般社団法人 日本補聴器工業会

<Halo と専用アプリ「TruLink」でできること>

- ・ワイヤレスヘッドフォンのようにストリーミングする事で通話もエンターテイメントも今まで以上に快適に楽しめます。もう周囲を気にして音量調整を行う必要はありません。
- ・スマホがワイヤレスマイクになります。大事な会議中、スマホを音源に向けて録音する事ができるので、もしその場で聞き逃してしまっても後で聞きなおすことができます。
- ・補聴器の微調整を自分で行うことが可能です。最大 20 メモリーものプログラムを作る事ができる上、GPS 機能と連動してその場に来ると自動で切り替わるように設定できます。
- ・レストラン、コンサート会場、スポーツ観戦等のとても賑やかな場所であっても、簡単操作で会話に必要な音を激減させる事ができます。
- ・身に付けているので、気づかないまま失くしてしまう事も多い補聴器。Halo ならそのような時もスマホを使えば、どこで見失ったのかを示してくれます。

・・・さらに、近日発売予定の Apple Watch とも連携可能です。

※Halo と TruLink アプリのより詳細な特長については以下のサイトをご覧ください。

Halo 専用ホームページ <http://www.trulinkhearing.jp/>

【スターキージャパン会社概要】

会社名:スターキージャパン株式会社

設立:1992 年 1 月

代表取締役:高木日出夫

事業内容:補聴器製造・販売および関連製品の輸入・販売

URL:<http://www.starkey-japan.co.jp/>



<スターキーについて>

スターキーは世界中の人々に「聞こえる喜び」を提供するべく 1967 年の米国ミネソタ州での創業以来、補聴器専門の開発・製造メーカーとして歩んできました。現在は社名をスターキーヒヤリングテクノロジーとして、補聴器の製造・開発はもちろんのこと、「きこえ」に関わる課題への問題解決を行っています。主に世界 120 以上の国と地域で年間 100 万台以上の補聴器を製造・販売しており、中でもオーダーメイド補聴器に関してはその先駆者として、現在も世界で No.1 の販売台数を誇ります。

■スターキージャパン株式会社 マーケティング担当:窪寺

TEL:045-942-7226(代表) FAX:045-942-7315

Email:sj_info@starkey.com

別紙①<新製品概要>

■Halo BTE13 概要

Halo BTE13 は、PR48(13)空気電池仕様の高-重度難聴の方に対応する耳かけ型補聴器です。昨年の2014年6月30日に発売したRIC型のシンプル設計はそのままに、テレコイル、プッシュボタンを搭載した筐体構造となっています。したがって、アプリ操作だけでなくボリューム調整やメモリー切換えなどを本体に直接触れて行う事も可能です。

筐体外観:



■Halo BTE13 最大出力/最大利得

Halo 器種	適応聴力	最大音響利得 (ピーク)	90dB 最大出力 音圧レベル(ピーク)	誘導コイル入力の 最大感度(dBSPL)
BTE13	高~重	74 dB	138dB SPL	101

(JIS-C-5512-2000 にて表示)

■Halo BTE13 の主な特長

○ISO-クリア...

スターキー史上最も広いダイナミックレンジで、大きな入力音の影響を受けることなく、小さな会話音の音質を維持します。

○両耳空間マッピング...

どんな環境においても、両耳間接続を通して左右の補聴器を常に SN 比(※)を最高に保ち、聞こえにさらなる快適さをご提供します。(両耳装用の場合に限り)

○アキュイティ指向性+スピーチ ID...

業界で革新的に導入された指向性 MEMS マイクロフォン(別紙②参照)と最大 16 チャンネルの追従型指向性システムで困難な聴取環境でも音声を守ります。さらに、スピーチ ID が働く事によって、ユーザーの背後で生じた言葉も探し出します。

○オートエクスペリエンスマネージャー...

初めて補聴器を装用するユーザーでも、選択した一定期間を経過すると、利得をユーザーの装用経験に合わせて緩やかに調整します。

※SN 比とは、S(シグナル:音声)と N(ノイズ:雑音)の比率のことです。

■TruLink アプリ概要

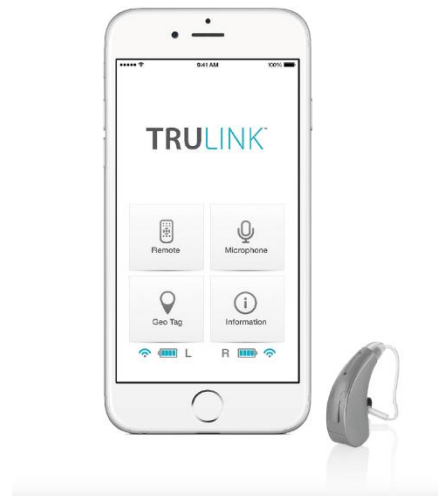
iPhone®などの iOS 端末やアンドロイド端末で TruLink Hearing Control(トゥルーリンクヒヤリングコントロール)アプリ(以下、TruLink アプリ)を使用し、Halo のボリューム調整やメモリー切換えだけでなく、ワイヤレスヘッドフォンのように音楽ストリーミングや、FaceTime®などの通話を簡単に行うことができます。

さらに、補聴器だけでは実現できなかった GPS 機能を使った「ジオタグ連動」機能、「補聴器を探す」機能や Siri®を利用した「文章の読上げ」機能、様々な環境で一人一人の好みの音質に直感的に調整できるスターキー独自の「サウンドスペース」機能など、革新的な機能を豊富に備えています。

これに加え、アプリケーションのアップデートと専門家の下で操作する補聴器調整パソコンソフト上の Halo 自身の性能更新によって機能追加が随時行われるのも魅力です。

現在の TruLink アプリケーションの最新バージョンは 2.0.0 で「快適性ブースト」、「オートストリーミング」等、ユーザー目線に合わせて開発されたより快適な聞き心地を実現する新機能も利用できます。今後もさらにアップデートは行われ続け、より機能が拡充されていく予定です。

iPhone®等のモバイル端末の登場はハンディキャップのある方たちに驚くべき可能性を見出しています。今日のウェアラブルデバイスの台頭にあわせたこの Halo の登場が今まで補聴器を敬遠しがちだった潜在的難聴の方にも、その装用体験で生活をより充実してアクティブに楽しめるということを実感していただけると私たちは考えます。スターキーは今までにない補聴器のパーソナル化を目指します。



Apple, Apple logo, iPhone, iPad, および iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

別紙②<新製品技術特長>

■あなたの補聴器の指向性、今も本当に機能していますか？—MEMS マイクロフォン搭載

補聴器における指向性処理は、水平面に沿って数ミリメートル離れて配置された2つのマイク間の位相関係を利用します。各マイクへの音の到達時間の差によって、聞き手の背後から来る音を抑制するという指向性マイクの処理が可能となっています。

この時に使用されるマイクの感度及び位相が一致していない場合、指向性処理の有効性は大幅に減少することになります。しかし、マイク感度の不一致を検証するには適切な設備がない場合、この指向性能を実証する事は客観的に難しい事があります。

Halo BTE13 に搭載された MEMS マイクロフォンは最先端の携帯電話に使用されるマイクロフォンと同技術となり、補聴器業界では革新的採用となります。

MEMS マイクロフォンは従来からのエレクトレットマイクにおける張力依存のポリエステル振動板を使用せず(図 1)、シリコン素材の結晶ディスクを使用します(図 2,3)。

したがって、湿気や温度での変化に耐性が強く、マイク感度の位相応答に変化が生じにくいので、従来よりもその補聴器自体の寿命を通して指向性能を保ちます。

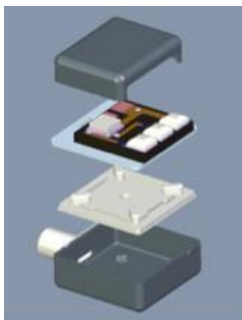


図1：エレクトレットマイクロホンの分解図

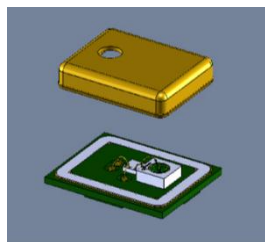


図2：MEMS マイクロホンの分解図

図3：MEMS マイクとなる結晶振動版シート拡大図

